

やまとの環境

概要版

— 環境基本計画年次報告書 —
令和2年度版（令和元年度実績報告）



大 和 市

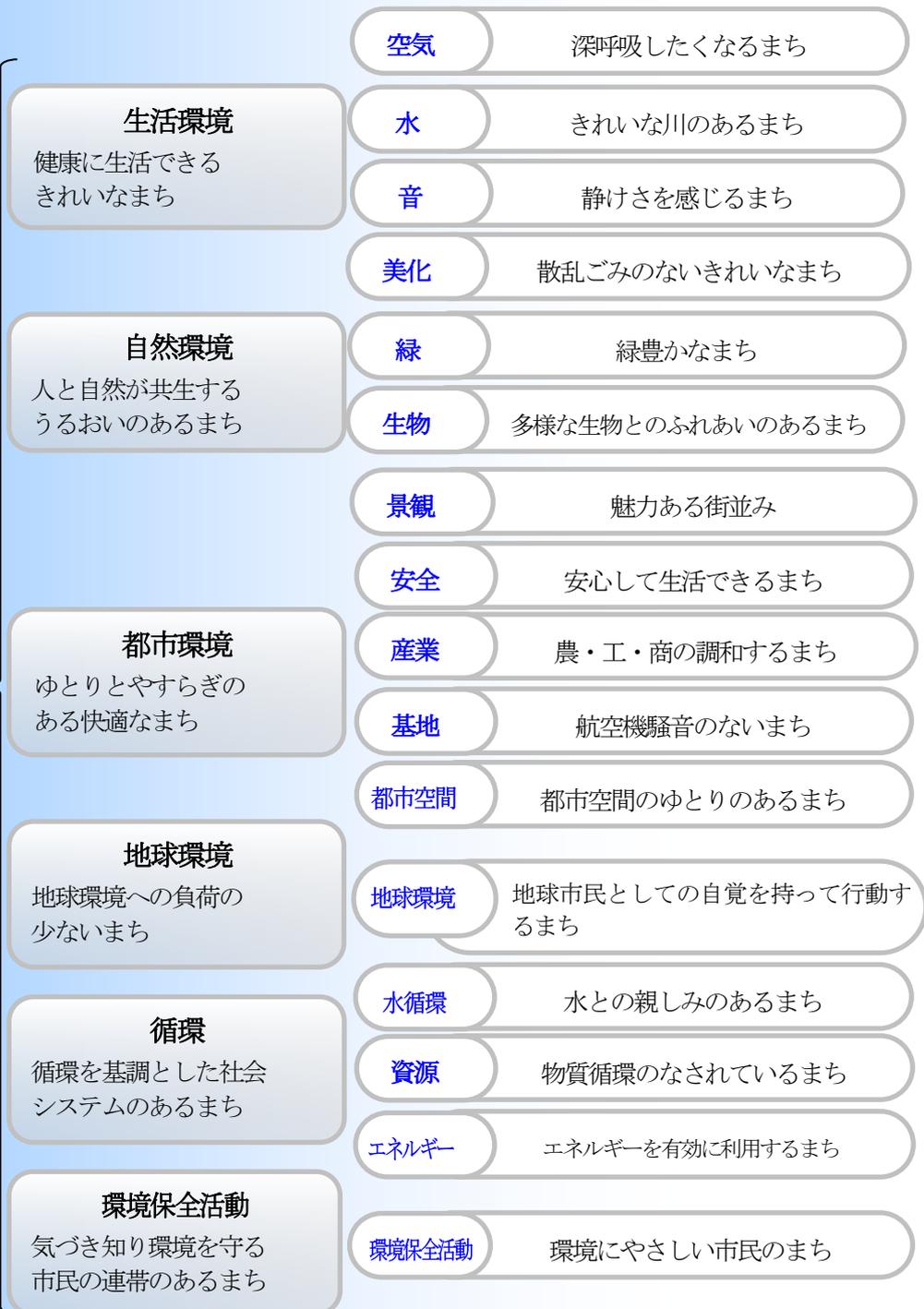
やまとの環境（大和市環境基本計画年次報告書）について

やまとの望ましい環境像、「自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと」の実現のために、大和市では平成10年度に環境基本計画を策定しました。平成29年度には、目標設定水準や施策の見直し、地球温暖化対策実行計画との総合的な管理の推進などを踏まえ、2回目の改定をしました。

本計画では、目標の達成度や、施策の進行状況を定期的に把握・評価し、必要に応じて見直しや修正を行います。このことから、やまとの環境の現況と、環境基本計画に基づく施策の進行状況等を明らかにするため、ここに年次報告書として取りまとめ、公表することにより、情報の公開と共有を図るものです。

自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと

望ましい環境像の実現



《指標項目についての進捗状況の一覧》

●目標値は令和9年度のものです。

各環境要素の評価一覧

<※着色部は目標未達>

環境要素	指標項目	現況値及び目標値	H30 年度数値	R1 年度数値
①空気	二酸化窒素濃度	28 年値 0.032ppm	0.033ppm	0.028ppm
		目標値 0.04ppm 以下		
②水	BOD (生物化学的酸素要求量)	28 年値 境川 1.6mg/1 引地川 1.4mg/1	境川 2.1mg/1 引地川 1.1mg/1	境川 1.6mg/1 引地川 1.3mg/1
		目標値 境川 3.0mg/1 以下 引地川 2.0mg/1 以下		
③音	市内全調査地点で環境基準をクリア	28 年値 50%	50%	67%
		目標値 100%		
④美化	「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合	29 年値 23%	市民 54% 事業者 54%	市民 58% 事業者 57%
		目標値 50%		
⑤緑	保全緑地契約面積等	28 年値 26.2ha	26.2ha	26.2ha
		目標値 26.2ha		
⑥生物	「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合	29 年値 33%	市民 38% 事業者 33%	市民 41% 事業者 37%
		目標値 50%		
	市内でミンゼミの生息が確認されていること	28 年値 生息を確認	生息を確認	生息を確認
		目標値 生息を確認		
⑦景観	「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民割合	29 年値 11%	市民 30% 事業者 22%	市民 29% 事業者 23%
		目標値 40%		
⑧安全	各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数	28 年値 3 種類	3 種類	3 種類
		目標値 0 種類		
⑨産業	環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合	29 年値 23%	53%	57%
		目標値 50%		
⑩基地	航空機騒音に係る環境基準の達成率	28 年値 0%	60%	60%
		目標値 100%		
	航空機騒音を削減させるよう取り組む	28 年値 取組んでいる	取組んでいる	取組んでいる
		目標値 取組んでいる		
⑪都市空間	一人当たりの都市公園等面積	28 年値 6.63㎡	6.62 ㎡	6.67 ㎡
		目標値 6.8㎡以上		
⑫地球環境	温室効果ガス排出量削減率 (2013 年度比)	2013 年値 (1343.4 千 t-CO ₂)	19.5%	-
		目標値 19.5%削減		
⑬水循環	雨水貯留槽購入費補助申請累積件数	28 年値 428 件 (基)	450 件 (11 件)	457 件 (7 件)
		目標値 650 件 (基)		
⑭資源	資源化率	28 年値 26.7%	27.7%	28.2%
		目標値 32.2%		
	市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量	28 年値 435 g	420g	424g
		目標値 438 g 未満		
⑮エネルギー	住宅用太陽光発電システム補助累積件数	28 年値 1408 件	1611 件 (104 件)	1723 件 (112 件)
		目標値 2500 件		
⑯環境保全活動	やまとみどりの学校プログラムへの参加校	28 年値 28 校	28 校	28 校
		目標値 市内全校(28 校)		
	「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合	28 年値 20%	市民 36% 事業者 40%	市民 42% 事業者 41%
		目標値 50%		

令和2年度時点で目標未達項目は10項目、H30 数値に対して同水準にある。

④美化、⑥生物、⑦景観、⑨産業、⑯環境保全活動のアンケート回答はH29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。

⑫地球環境の温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

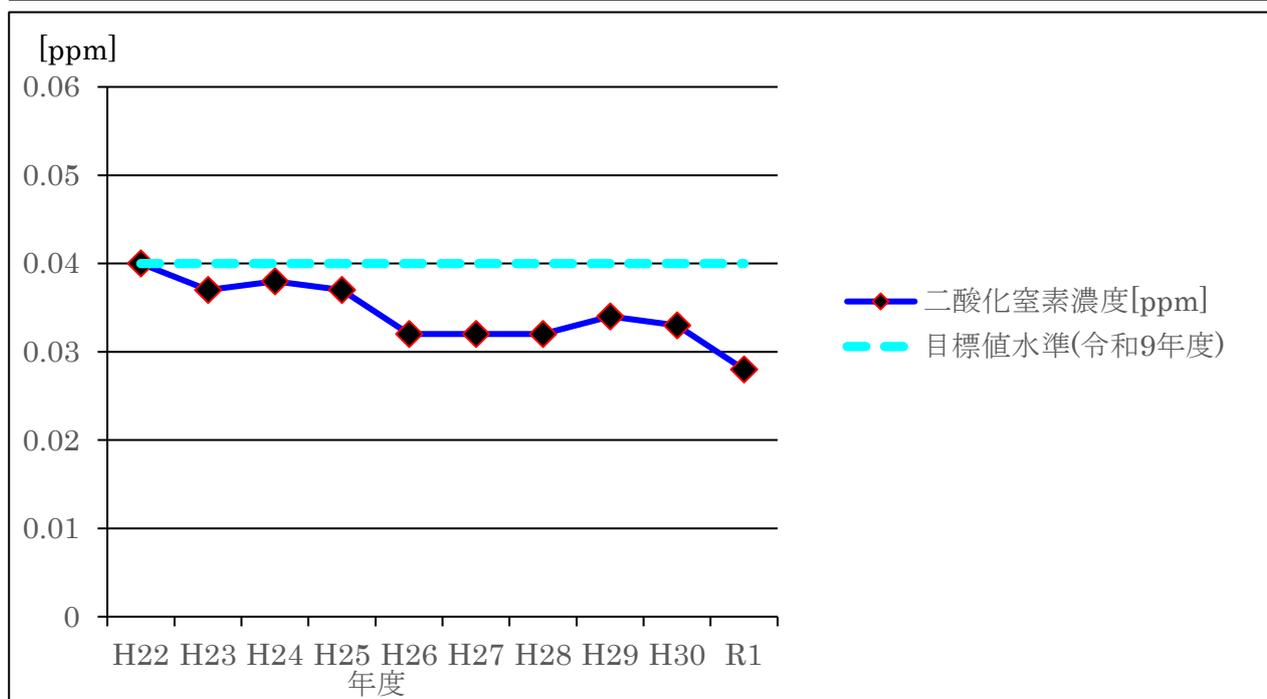
⑬水循環、⑮エネルギーは累計値となっており、() 内は単年当たりの件数

環境要素 1: 空気

目標: 深呼吸したくなるまち

全体の数値目標: 二酸化窒素濃度 0.04ppm 以下

【指標の内容】	「人の健康を保護するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、環境基準同様に、日平均値を一年分並べて低いほうから98%に相当する値」を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和年度	目標値
二酸化窒素濃度[ppm]	0.032	0.032	0.034	0.033	0.028	0.04

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】二酸化窒素濃度が目標値を下回ったため

【目標の確認のための取組】常時監視測定局の大和市役所における二酸化窒素濃度年間98%値(環境基準)の経年変化を測定

《令和元年度の取組事例》

- ・コミュニティバス「のろっと」及び「やまとん GO」、西鶴間・上草柳地域の協働事業「のりあい」の運行により、交通利便性の向上が図られた。
- ・上草柳トラックステーションにてアイドリングストップのステッカーを配布し、啓発活動を実施した。また、開発協議会で33件の駐車場管理者に対し、アイドリングストップの周知について指導した。
- ・簡易測定法による窒素酸化物濃度の測定を年2回市内32ヵ所で実施した。
- ・特定建設作業の届出(振動)35件に対し、指導を行った。また、工場・事業所及び工事に伴う悪臭・粉じん苦情に対し指導を行った。
- ・246mの歩行者空間を整備した。

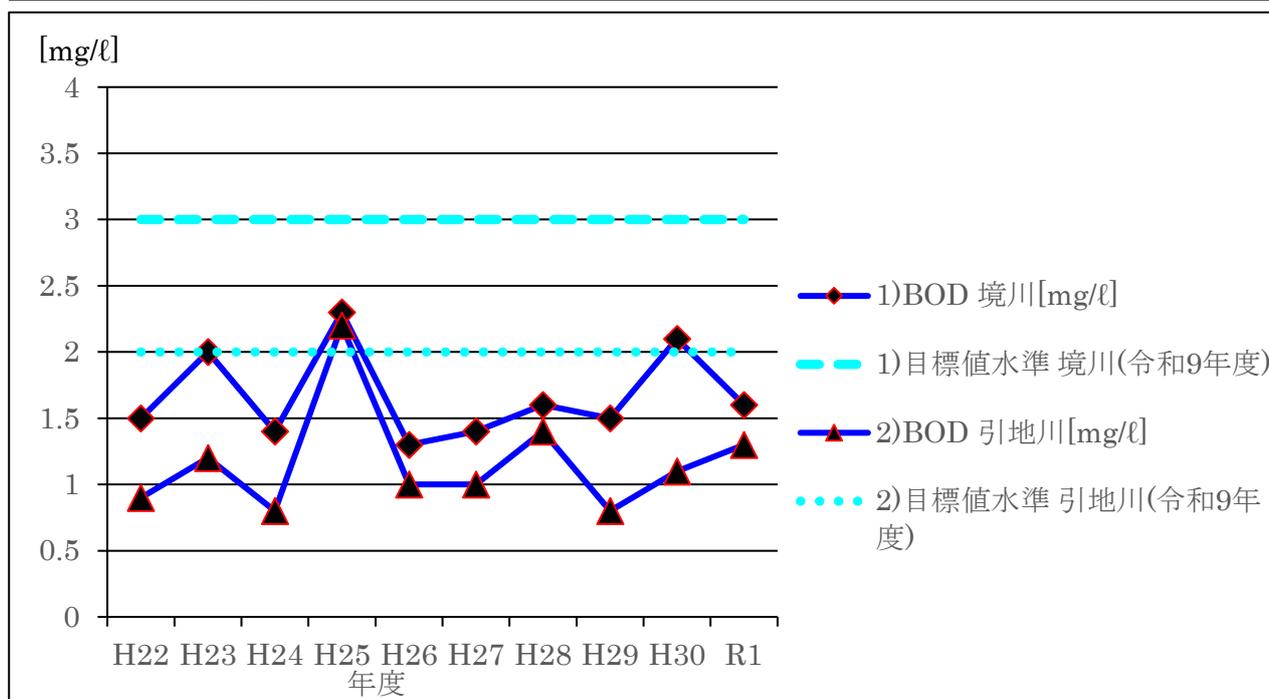
環境要素 2:水

目標:きれいな川のあるまち

全体の数値目標:BOD(生物化学的酸素要求量)

境川 3.0mg/ℓ 以下・引地川 2.0mg/ℓ 以下

【指標の内容】	「生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、市が独自に行う水質調査の平均値による値」を表示します。
---------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
境川[mg/l]	14	16	15	21	16	30
引地川[mg/l]	10	14	08	11	13	20

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】BODが基準値以下になり目標を達成したため

【目標の確認のための取組】河川の水質測定

《令和元年度の取組事例》

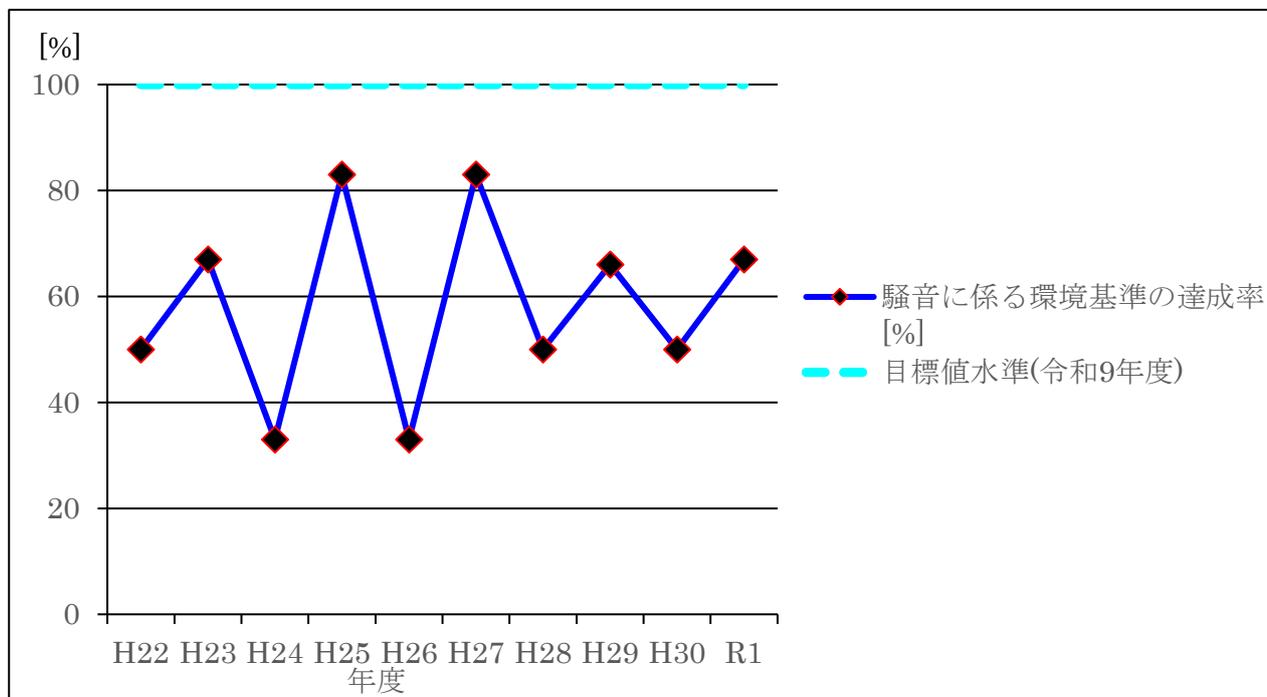
- ・水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、のべ 63 事業所について立ち入り調査を行い、26 件について水質検査を実施した。
- ・特定事業場への立入検査を137件実施した。
- ・下水道供用開始区域の公共下水道未接続家屋へ水洗便所への改造や水洗家屋への建て替えなど、水洗化を促した。
- ・下水道出前授業(実施校 18 校)、下水道ポスター展の開催(応募数 1,467 点)、下水道に関するイベントや学校教育等により、生活排水と下水道の役割についての意識啓発を進めた。

環境要素 3:音

目標:静けさを感じるまち

全体の数値目標:市内全調査地点で環境基準をクリア

【指標の内容】	市内全道路騒音調査地点における、騒音に係る環境基準の達成率を表示します。
---------	--------------------------------------



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
騒音に係る環境基準の達成率[%]	83	50	66	50	67	100

【本年度の評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】環境基準を満足している地点数が増加したため

【目標の確認のための取組】幹線交通を担う道路における騒音測定

《令和元年度の取組事例》

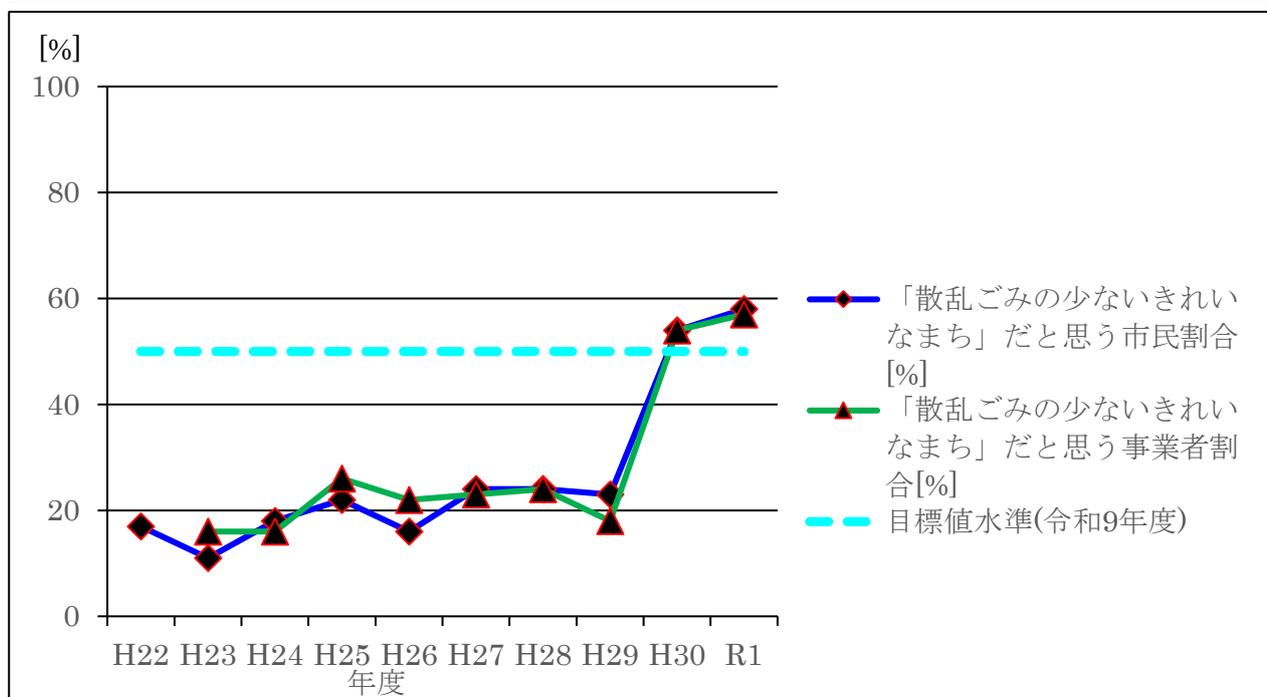
- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請事において、事業者に対し、騒音・振動防止対策を指導した。また、工場・事業所から発生した騒音・振動苦情9件について事業者に指導を行った。
- ・屋外作業に伴う騒音・振動苦情21件に対して事業者に指導を行った。
- ・広報やホームページで生活騒音防止に関する意識啓発活動を行った。
- ・啓発用リーフレットやホームページ等により、自動車利用者への意識啓発を図った。
- ・2,078㎡の低騒音舗装(排水性舗装)を整備した。

環境要素 4:美化

目標:散乱ごみのないきれいなまち

全体の数値目標:「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(24)	(24)	(23)	54	58	50
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ事業所の割合[%]	(23)	(24)	(18)	54	57	50

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として () でくくります。

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】「美化」に関する環境が良いと思ふ割合が目標値に達しているため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

《令和元年度の取組事例》

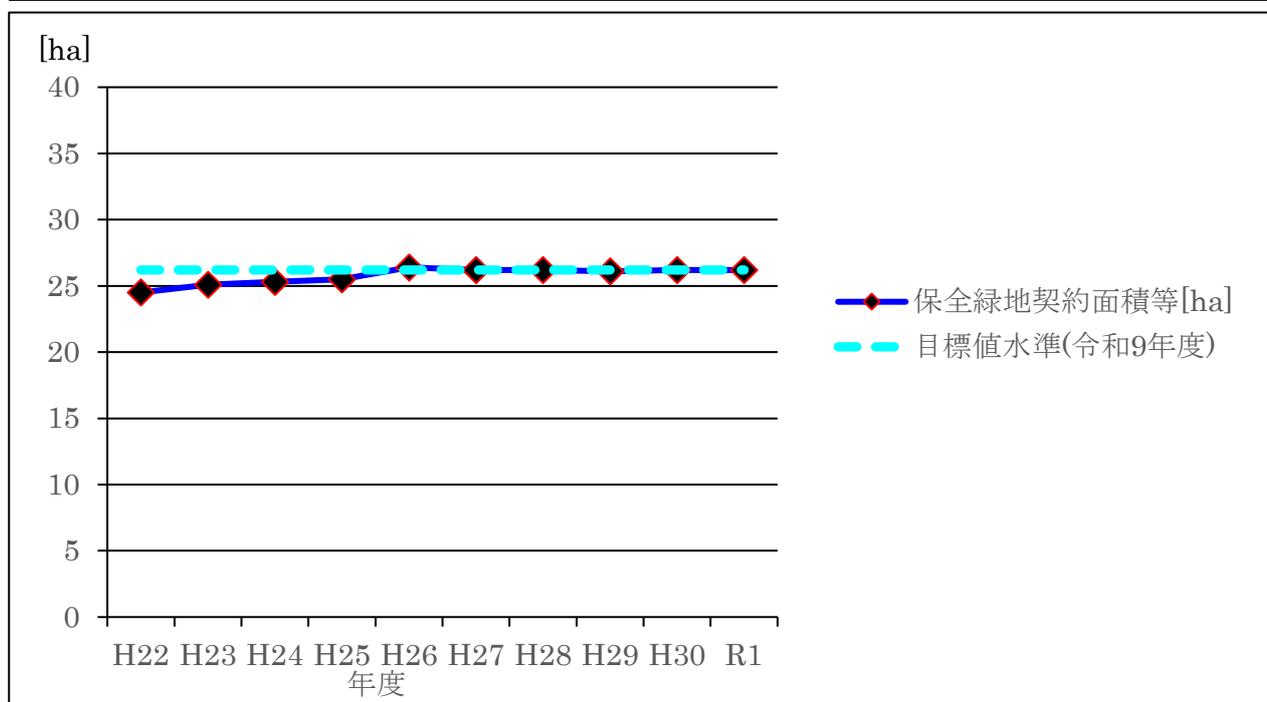
- ・不法投棄防止の啓発看板等の作成やパトロールを行うとともに、ボランティア袋を市民に配布し散乱ごみや不法投棄防止のための意識啓発を行った。
- ・年間クリーンキャンペーンとして、清掃の日、例月まち並み清掃、美化推進月間クリーンキャンペーンを実施し、美化活動を行った。

環境要素 5:緑

目標:緑豊かなまち

全体の数値目標:保全緑地契約面積等 26.2ha

【指標の内容】	今ある緑を守り育てるため、「保全緑地契約面積等」の値を表示します。
---------	-----------------------------------



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
保全緑地契約面積等[ha]	26.2	26.2	26.1	26.2	26.2	26.2

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】保全緑地契約面積等が維持できているため

【目標の確認のための取組】保全緑地契約面積等を把握

《令和元年度の取組事例》

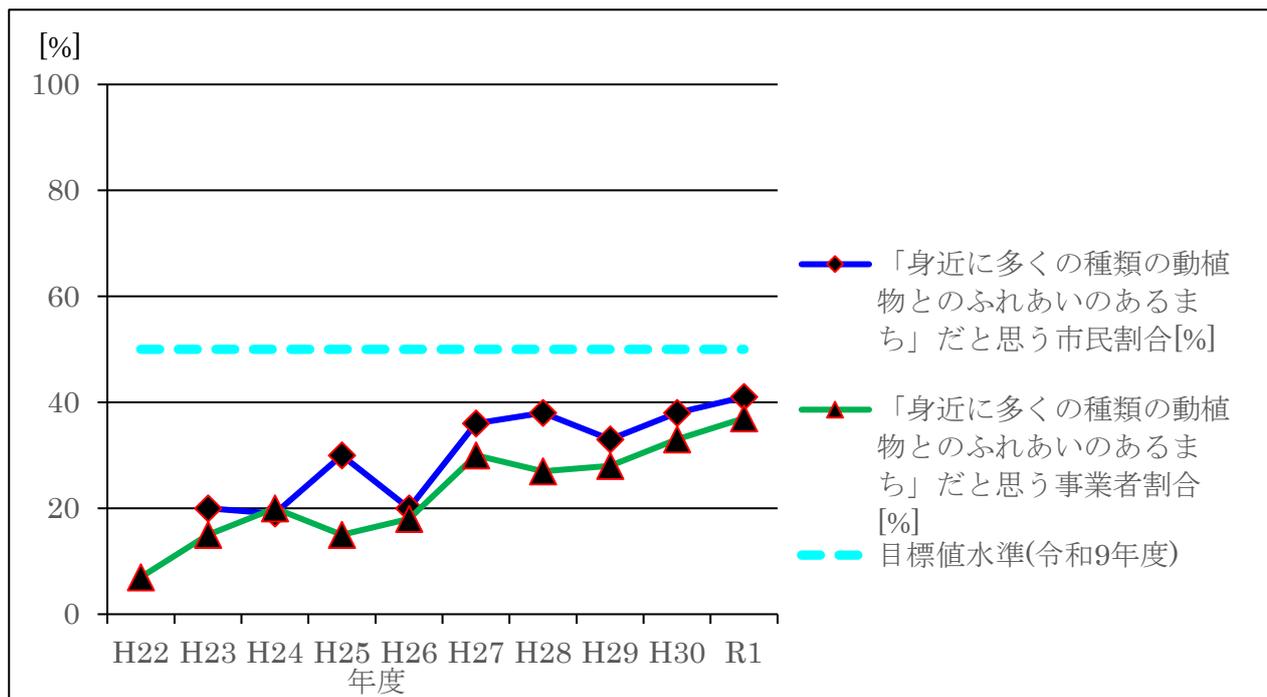
- ・前年度と同等の保全緑地面積を確保した。
- ・緑のカーテン作り方教室を開催し、参加者へ緑化資材を配布した。
- ・住宅地における接道部緑化（生垣等設置）に対して助成を行ったが、目標に届かなかった。
- ・公園が所在する自治会に、自主的な緑化活動グループの設置を働きかけ、より良い支援活動を実施できるよう努めた。

環境要素 6:生物

目標:多様な生物とのふれあいのあるまち

全体の数値目標:「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
----------------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和0年度	目標値
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(36)	(38)	(33)	38	41	50
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	(30)	(27)	(28)	33	37	50

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として 0 でくります。

【本年度の評価】市民割合、事業者割合ともに目標に近づいた

【評価の理由】市民、事業者ともに「生物」に関する環境が良いと思ふ割合が増え目標に近づいたため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

全体の数値目標:市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること

【指標の内容】	自然度を表すことのできる生物としてミンミンゼミの生息がぬけがら採取から確認できたかどうかを表示します。
----------------	---

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること (ミンミンゼミが全体に占める割合 %)	○(11.3)	○(9.5)	○(11.3)	○(13.2)	○(13.5)	生息を確認

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】例年同様にミンミンゼミが確認されている

【目標の確認のための取組】市民環境調査(セミのぬけがら調査)による調査

《令和元年度の取組事例》

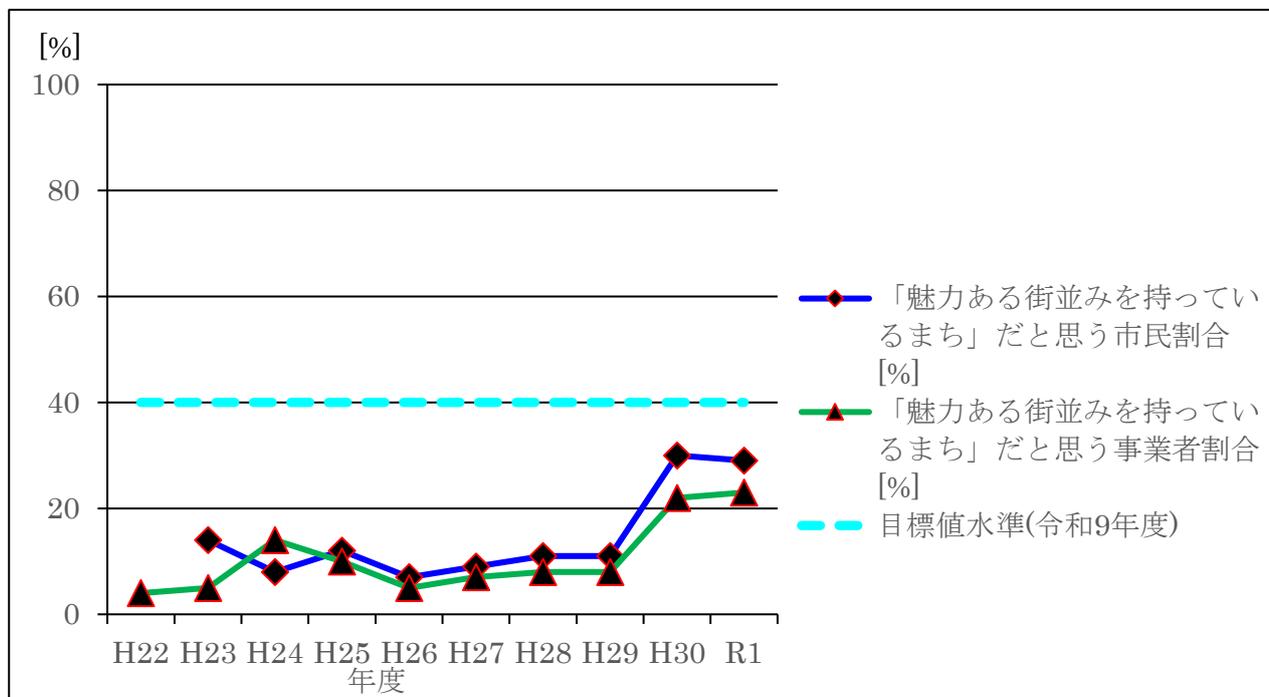
- ・市内に生息する野生動植物を調査する市民環境調査として、7月～9月にセミのぬけがら調査を実施し、ミンミンゼミ等の生息状況を把握した。
- ・ホームページやリーフレット等を利用し、継続的に野生動植物保護に関する普及啓発を図った。
- ・緑地の保全管理を適切に行い、野生動植物の生息・育成地の保全を図った。

環境要素 7:景観

目標:魅力ある街並み

全体の数値目標:「魅力ある街並みを持っているまち」と思う市民割合 40%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「魅力ある街並みを持っているまち」と思う市民・事業者の割合を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う市民の割合[%]	(9)	(11)	(11)	30	29	40
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う事業者の割合[%]	(7)	(8)	(8)	22	23	40

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として()でくくります。

【本年度の評価】市民割合、事業者割合ともに目標を達成せず昨年度と同等だった

【評価の理由】「景観」に関する環境が良いと思う割合が昨年度と同等だったため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

《令和元年度の取組事例》

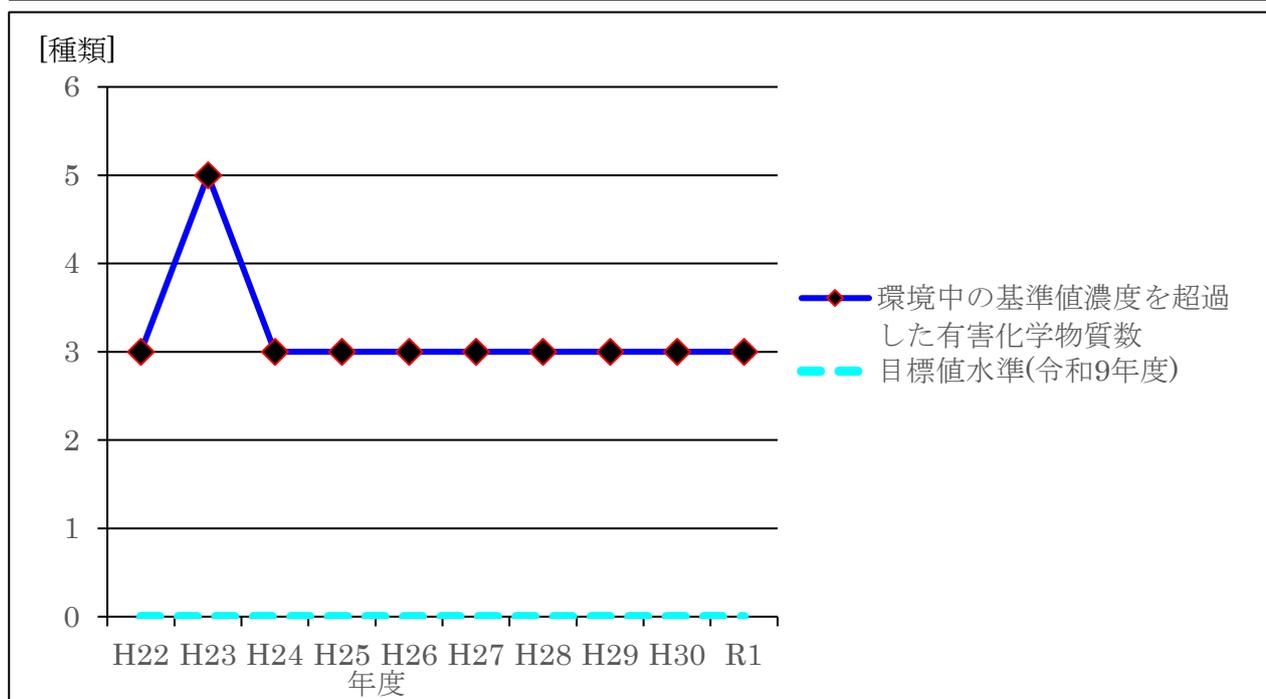
- ・景観づくりに関する普及啓発を進めるため、街づくり学校の開催や街づくり啓発事業を実施した。
- ・246mの歩行者空間を整備し、ゆとりある歩道の確保や、歩道と車道の区画部の改善を図った。

環境要素 8:安全

目標:安心して生活できるまち

全体の数値目標:環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数 **ゼロ**

【指標の内容】	人の健康を守るために望ましい環境基準等を定められた有害物質を対象に市の大気、水質、地下水についての調査で環境基準等を超過した物質の数を表示します。
----------------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和年度	目標値
環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数[種類]	3	3	3	3	3	0

【本年度の評価】目標を達成せず昨年度と同等だった

【評価の理由】有害物質数が昨年度と同じだったため

【目標の確認のための取組】各環境中の基準濃度と超過した有害化学物質数の測定

《令和元年度の取組事例》

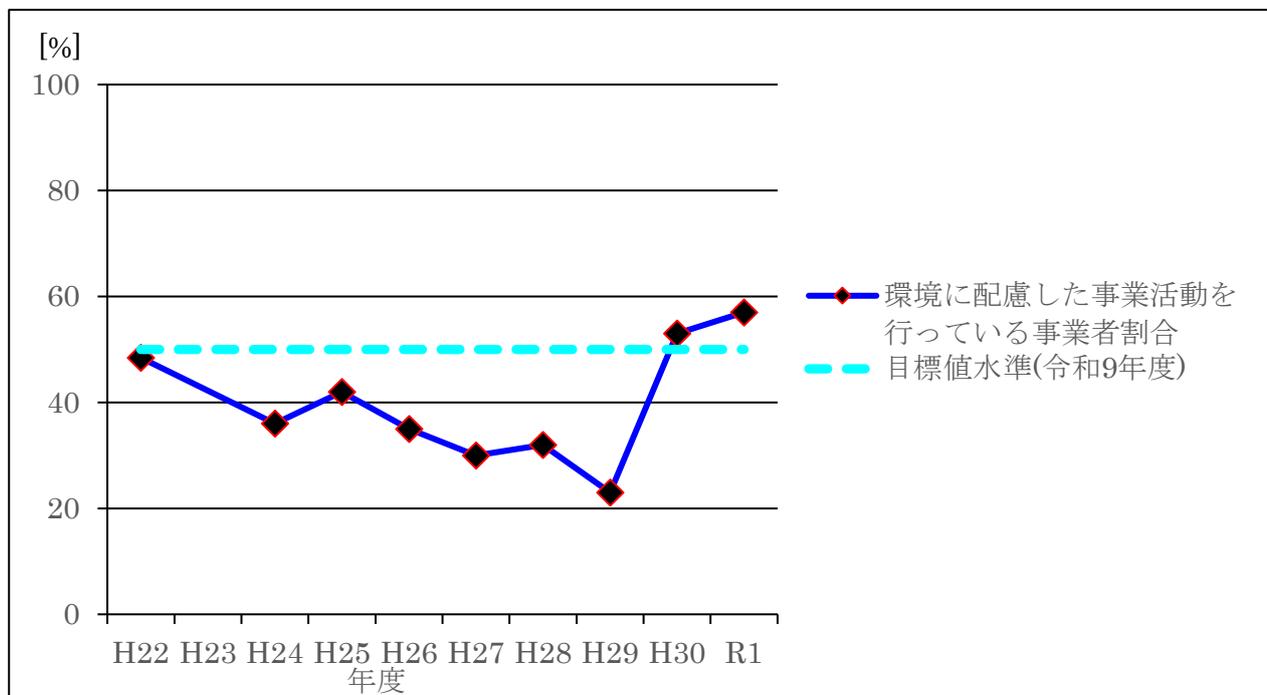
- ・耐震化の必要性の周知を行うとともに、木造建築物の耐震診断、耐震改修の補助により、住宅の耐震化を進めた。
- ・防災マップを市民に提供するほか、防災講話、防災セミナー、防災協力員研修の実施により、防災に関する意識啓発を行った。
- ・市内 11 か所の 100 トン水槽の巡回点検を水道局とともに年 2 回実施し、災害時の飲料水確保に努めた。
- ・台風や集中豪雨時に、PS メール、やまと SOS アプリで情報を提供した。
- ・13 事業所について立入調査を実施し、化学物質に対する情報提供や、利用者に対する調査を実施した。
- ・大気 1 地点(年 2 回)、河川 (水、底質)、土壌のダイオキシン類濃度測定を実施した。

環境要素 9:産業

目標:農・工・商の調和するまち

全体の数値目標:環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮した事業活動を行っている」と回答した事業者の割合を表示します。
---------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合[%]	(30)	(32)	(23)	53	57	50

※アンケートの回答はH29年度まで「大切であり実際に取り組んでいる、大切とは思わぬが取り組みはしていない、大切とは思わぬ」の3段階で「大切であり実際に取り組んでいる」の割合。H30年度からは「実施している、やや実施している、あまり実施していない、まったく実施していない」の4段階とし、「実施している、やや実施している」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として()でくくります。

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】環境に配慮した事業活動を行っている割合が目標に達しているため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

《令和元年度の取組事例》

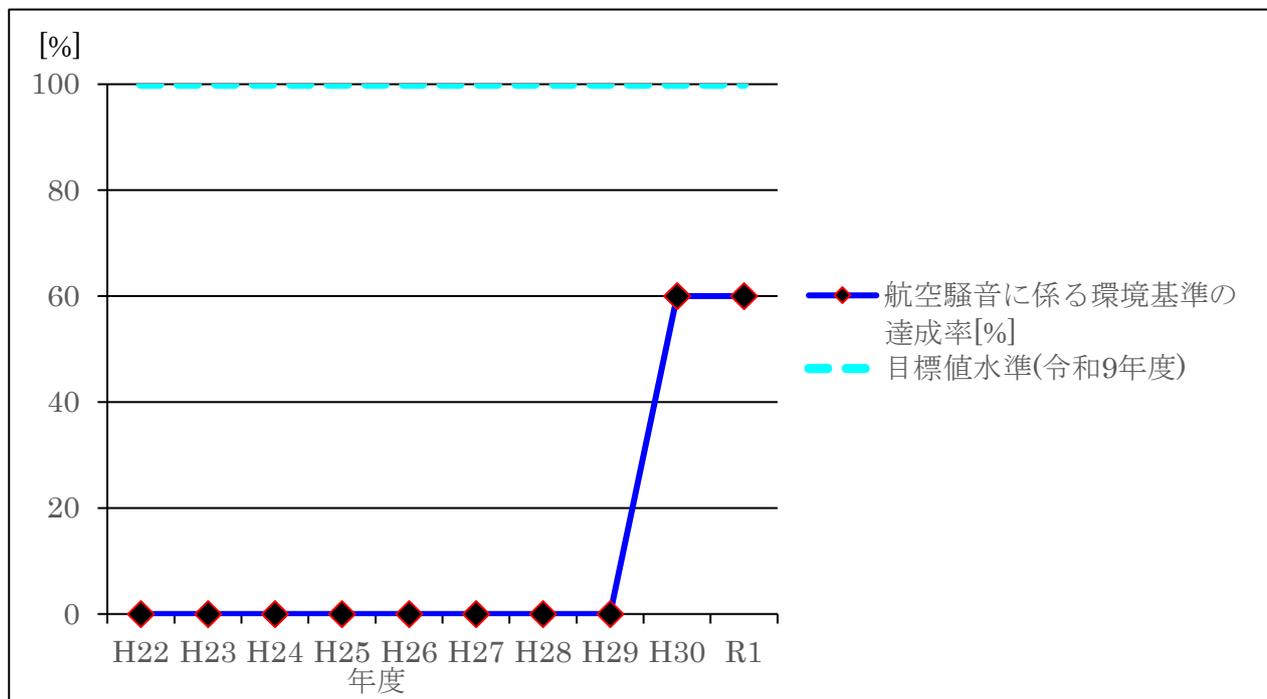
- ・土づくり等を通じて化学肥料や農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を推進した。
- ・農業経営の相談、各種研修会の開催や情報交換等の周知等を行い、農業者の育成に努めた。
- ・グリーン購入などのパンフレット配架等により、情報提供を行った。

環境要素 10:基地

目標:航空機騒音のないまち

全体の数値目標:航空機騒音に係る環境基準の達成率 100%

【指標の内容】 市内全域での「航空機騒音に係る環境基準」の達成率を表示します。



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和年度	目標値
航空機騒音に係る環境基準の達成率 [%]	0	0	0	60	60	100

【本年度の評価】目標は未達成だが、大幅に改善した状況を維持した

【評価の理由】航空機騒音に係る環境基準の達成率が昨年度と同等だったため

【目標の確認のための取組】航空機騒音の測定

全体の数値目標:航空機騒音を遡減させるよう取り組む

【指標の内容】	航空機騒音を遡減させるよう取り組んだかどうかを表示します。
---------	-------------------------------

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
航空機騒音を遡減させるよう取り組む	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】例年同様に航空機騒音を遡減させるよう取り組んでいる

【目標の確認のための取組】航空機騒音の軽減に向けたはたらきかけ

《令和元年度の取組事例》

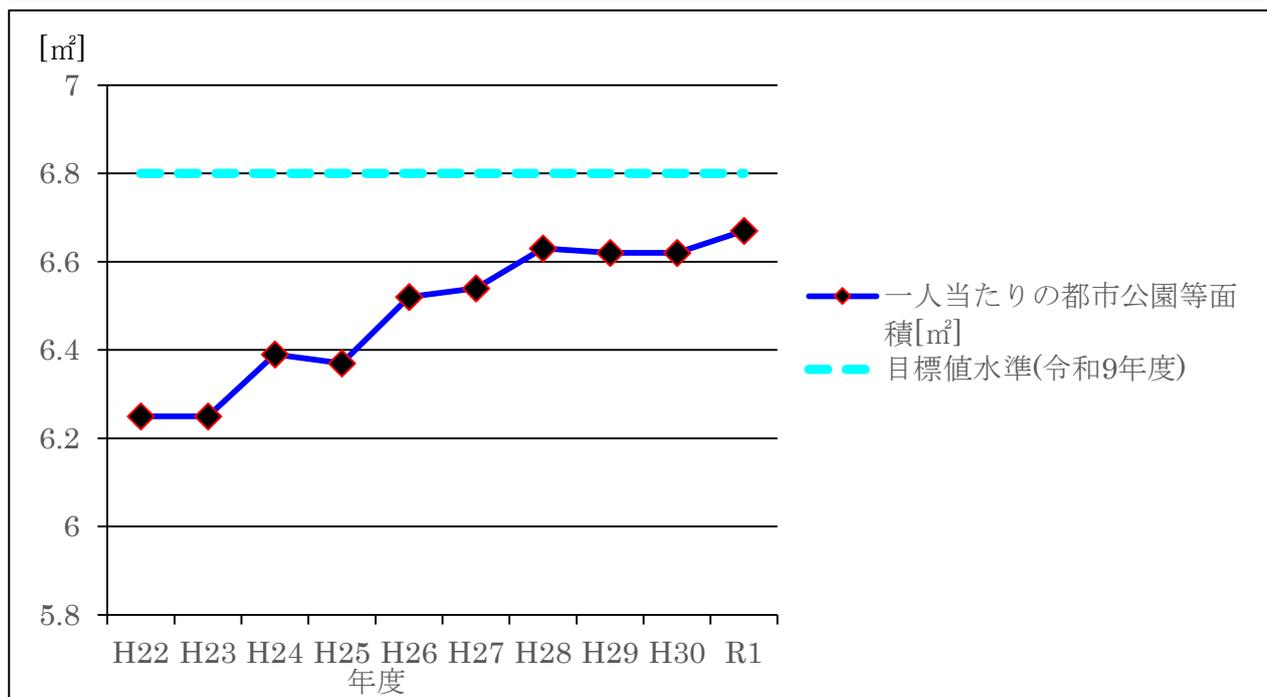
- ・大和市、大和市基地対策協議会、厚木基地騒音対策協議会、神奈川県基地関係県市連絡協議会による要請活動を行うにあたり、現状を踏まえ要請内容を検討した。
- ・県と市で設置している騒音計による騒音測定を継続実施した。
- ・基地周辺(2か所)で地下水調査を実施したところ、環境基準を満足していた。

環境要素 11:都市空間

目標:都市空間のゆとりのあるまち

全体の数値目標:一人当たりの都市公園等面積 6.8 m²以上

【指標の内容】	一人当たりの都市公園面積を現状程度に維持するために一人当たりの都市公園面積を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
一人当たりの都市公園等面積[m ²]	654	663	662	662	667	68

【本年度の評価】目標は未達成だが、改善した

【評価の理由】基幹公園面積の増加により、目標に近づいたため

【目標の確認のための取組】「緑の基本計画」の目標水準に沿って取り組んだ

《令和元年度の取組事例》

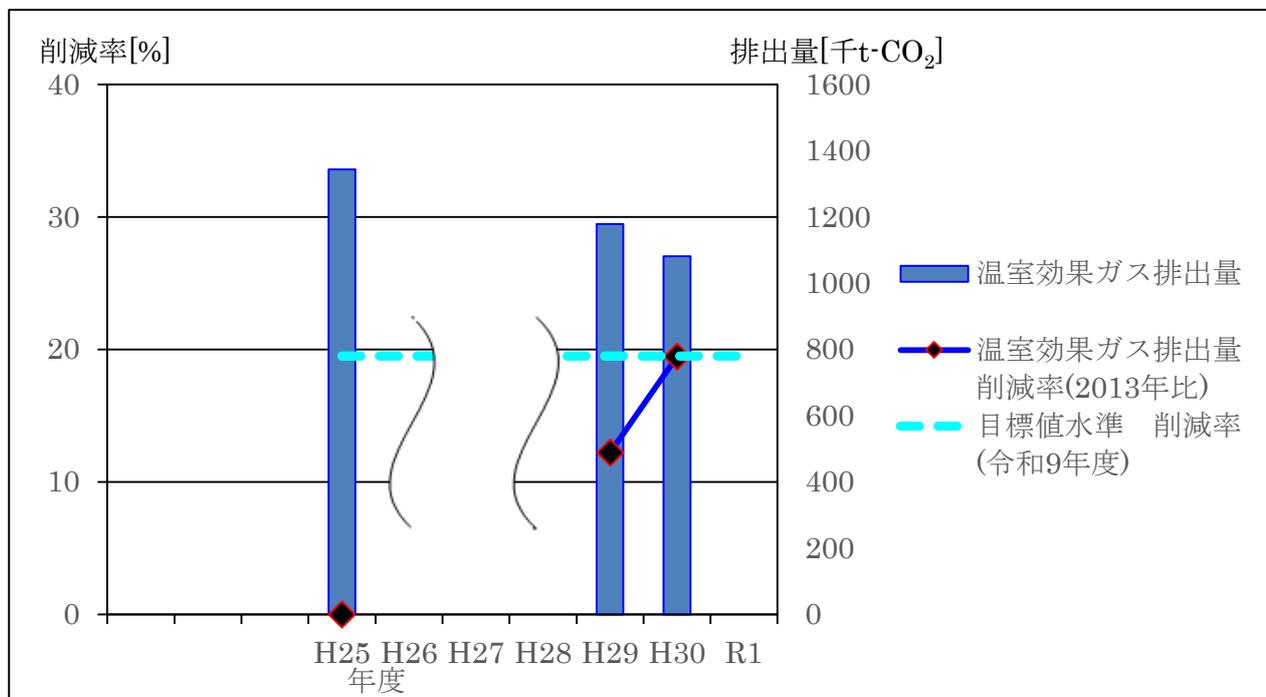
- ・生活道路等において、速度抑制等の交通安全対策を75箇所実施した。
- ・246mの歩行者空間を整備した。
- ・各種交通安全教室や街頭キャンペーン等により交通安全の啓発活動を実施した。
- ・(仮称)ふれあいの森草柳第2広場の整備を行った。
- ・地域住民の良好な生活環境を確保するため、開発等の事業に対する指導を行う。

環境要素 12:地球環境

目標:地球市民としての自覚を持って行動するまち

全体の数値目標:温室効果ガス排出量 19.5%削減(2013年度比)

【指標の内容】	地球温暖化を抑制するため「温室効果ガス排出量」を指標とし、2013年度を基準とした削減率を表示します。
----------------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
温室効果ガス排出量削減%	-	-	122	195	-	195

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】平成30年度推計値が目標値に達したため

【目標の確認のための取組】地球温暖化対策実行計画(区域施策編)による推計

※温室効果ガス排出量は、「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定・実施マニュアル(算定手法編) Ver1.0」(平成29年3月、環境省)に基づいて算定し直しているため、旧計画の公表の結果とは異なります。平成28年度以前は算出基準が異なるので表記は平成29年度以降になります。

※温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

《令和元年度の取組事例》

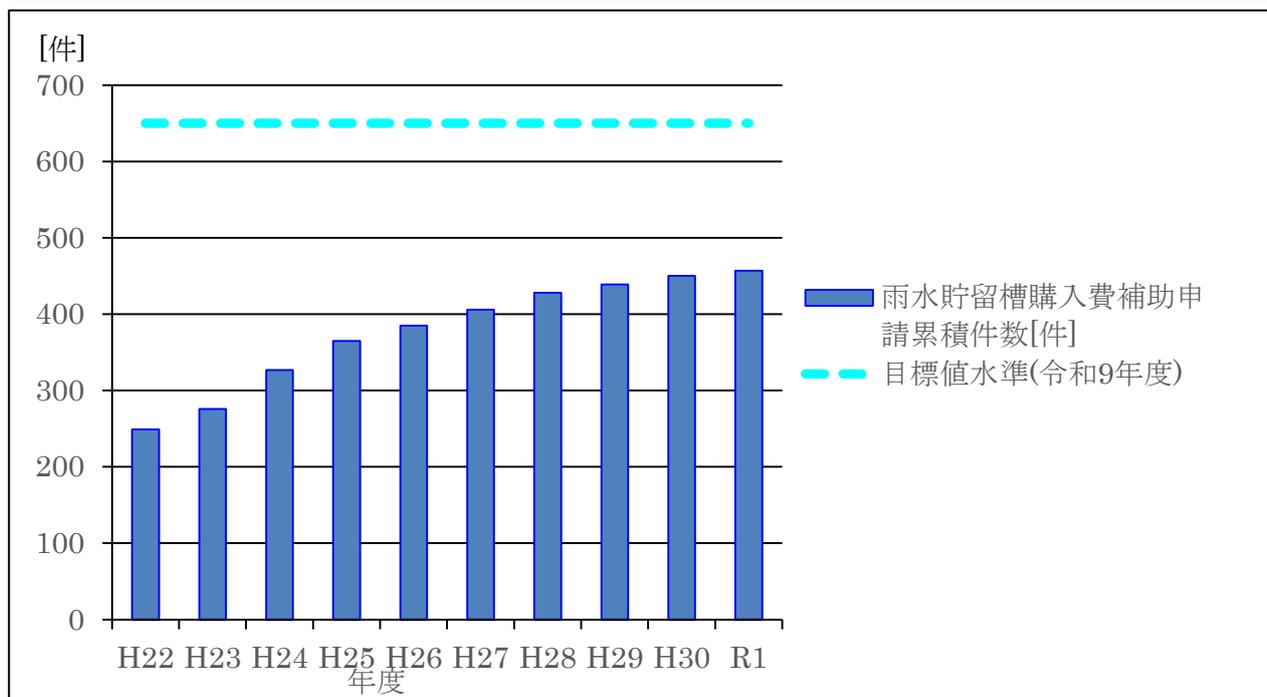
- ・ホームページ等で、大和市環境基本計画及び大和市環境配慮指針の普及・啓発を行った。
- ・熱中症・感染症予防に向け多くの手段を通じて普及・啓発を行った。
- ・感染症について、市民に正しい知識を普及啓発することで、感染症へかかるリスク、重症化するリスクの軽減をはかった。

環境要素 13:水循環

目標:水との親しみのあるまち

全体の数値目標:雨水貯留槽購入費補助申請累計件数 650 件

【指標の内容】	雨水の有効活用を示す指標として、「雨水貯留槽購入費申請累計件数」を表示します。
---------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
雨水貯留槽購入費補助申請累計件数 [件]	406	428	439	450	457	650

【本年度の評価】年当たりの申請件数が計画に対して少ない

【評価の理由】令和9年度累計目標達成には年当たりの申請件数が少ない

【目標の確認のための取組】雨水貯留槽購入費用補助申請件数(累計)

《令和元年度の取組事例》

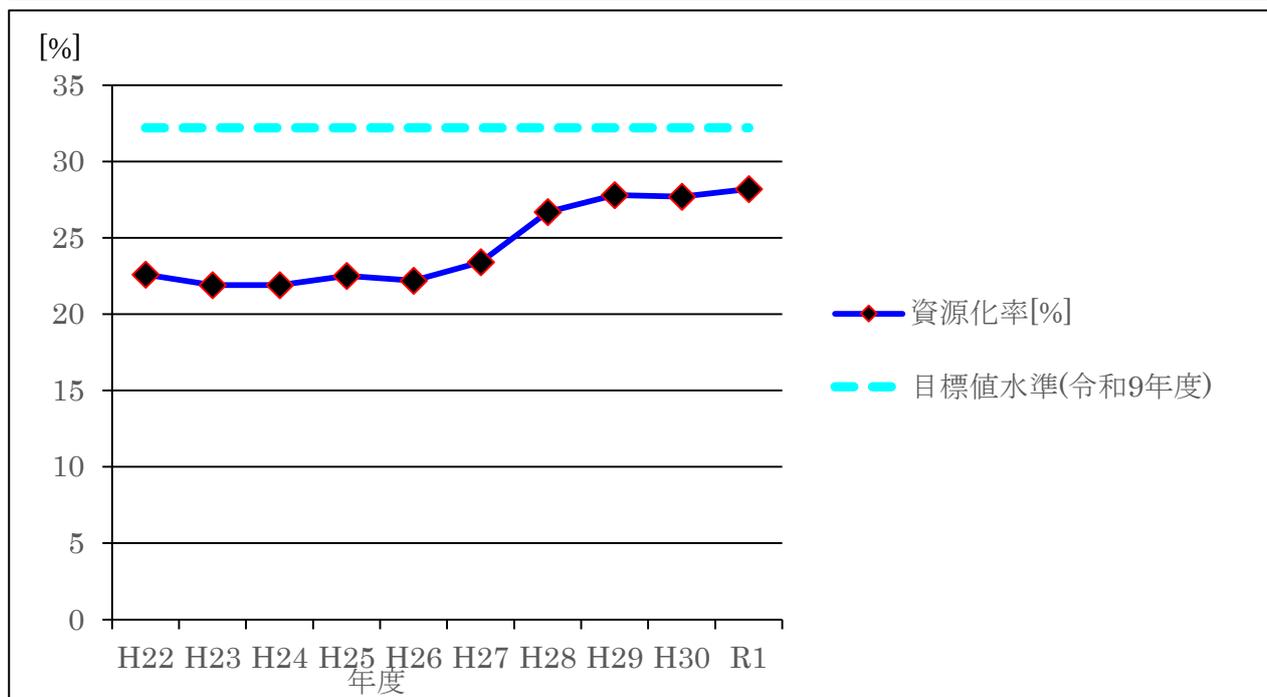
- ・雨水貯留槽購入費補助金交付制度により、雨水貯留槽設置補助金を交付した。
- ・北大和小、大野原小、中央林間小児童クラブに雨水浸透施設を設置した。
- ・生活道路整備工事で 750 m²の透水性舗装を実施した。
- ・立ち入りした 13 事業所について、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、水質汚濁防止法、土壤汚染対策法に基づき、地下水汚染の未然防止等について指導した。
- ・市内 12 地点で地下水水質調査を実施したところ、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が 1 地点、六価クロムが 1 地点、計 2 地点で環境基準を超過していた。

環境要素 14:資源

目標:物質循環のなされているまち

全体の数値目標:資源化率 32.2%以上

【指標の内容】	家庭と処理手数料を払っている事業所からの排出総量に対する資源化量の割合として計算された資源化率を表示します。
----------------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値
資源化率[%]	23.4	26.7	27.8	27.7	28.2	32.2

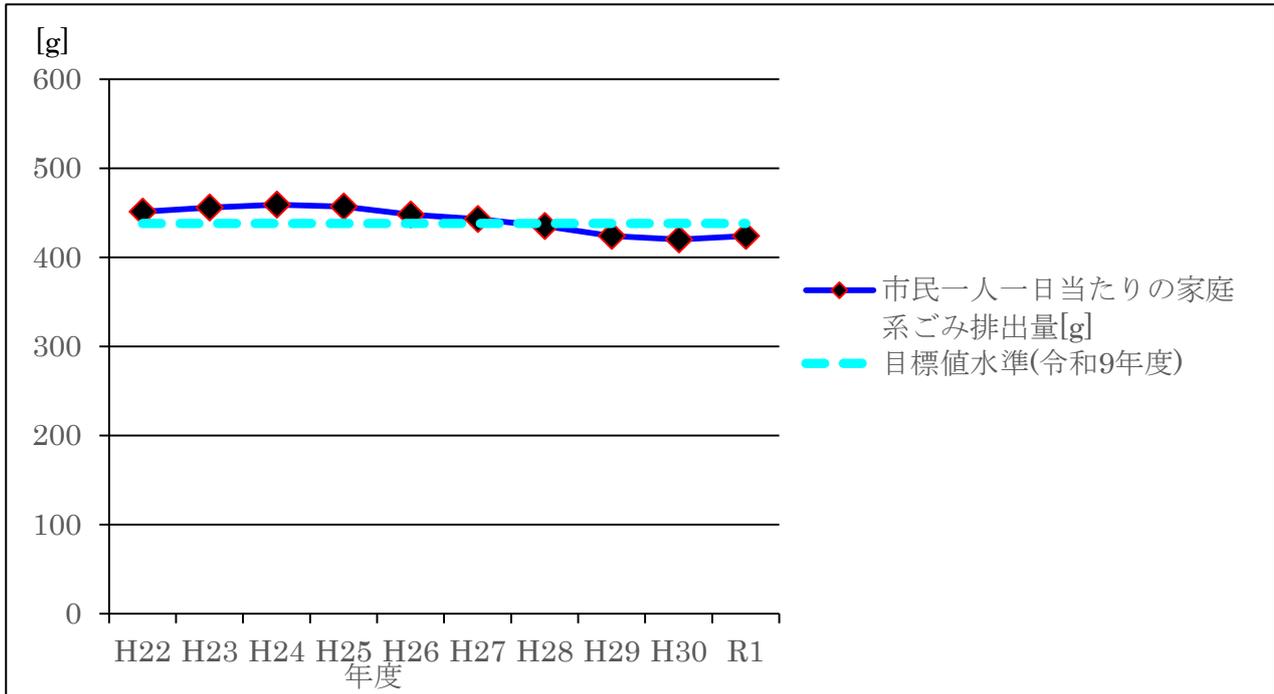
【本年度の評価】目標は未達成だが目標値に近づいた

【評価の理由】資源分別回収について定着しつつあるため数値は微増傾向

【目標の確認のための取組】総ごみ排出量及び総資源化量の集計

全体の数値目標: 市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 438g 未満

【指標の内容】	ごみ減量化のため市民一人一日当たりの家庭系ごみの排出量を表示します。
---------	------------------------------------



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
市民一人一日あたりごみ排出量[g]	443	435	424	420	424	438

【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】ごみの減量については、市民に定着しているため

【目標の確認のための取組】総ごみ排出量及び総資源化量の集計

《令和元年度の取組事例》

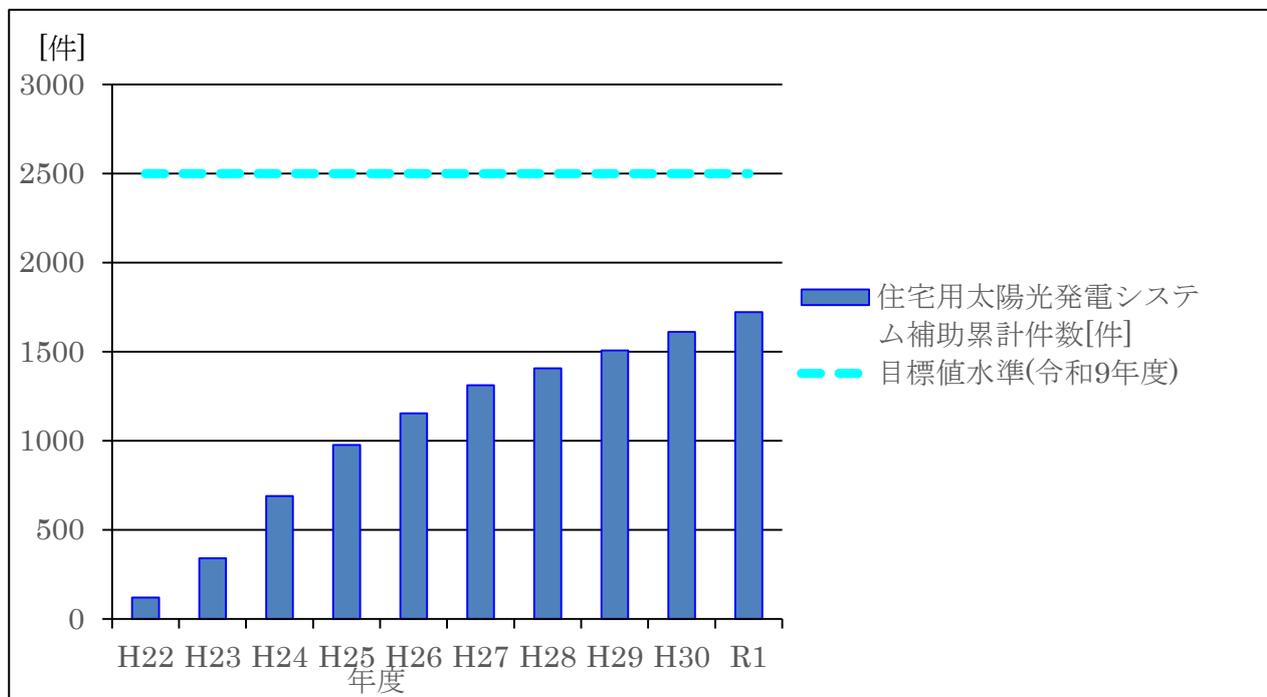
- ・「家庭の資源とごみの分け方・出し方」パンフレット、カレンダーにより、廃棄物の適正処理の周知及び資源に対する意識の啓発を図った。
- ・事業系ごみの適正処理についてパトロールを行い、必要に応じて適正処理・処分方法の案内や指導を行った。
- ・循環型社会形成推進地域計画の変更作業を行った。また、神奈川県ごみ処理広域化推進会議の専門部会において、食品ロス削減のための県内一斉広報を行った。
- ・イベント開催時に、市民向けにごみ減量化に関する啓発活動を実施した。

環境要素 15:エネルギー

目標:エネルギーを有効に利用するまち

全体の数値目標:住宅用太陽光発電システム補助累積件数 2,500 件

【指標の内容】	再生可能エネルギーの普及拡大を目的とし、平成21年度から開始した住宅用太陽光発電システム補助の累積件数を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
住宅用太陽光発電システム補助累積件数(件)	1313	1408	1507	1611	1723	2500

【本年度の評価】年当たりの補助件数が計画通りとなった

【評価の理由】令和9年度累計目標達成に対し年間補助件数が計画通り増加している

【目標の確認のための取組】住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)

《令和元年度の取組事例》

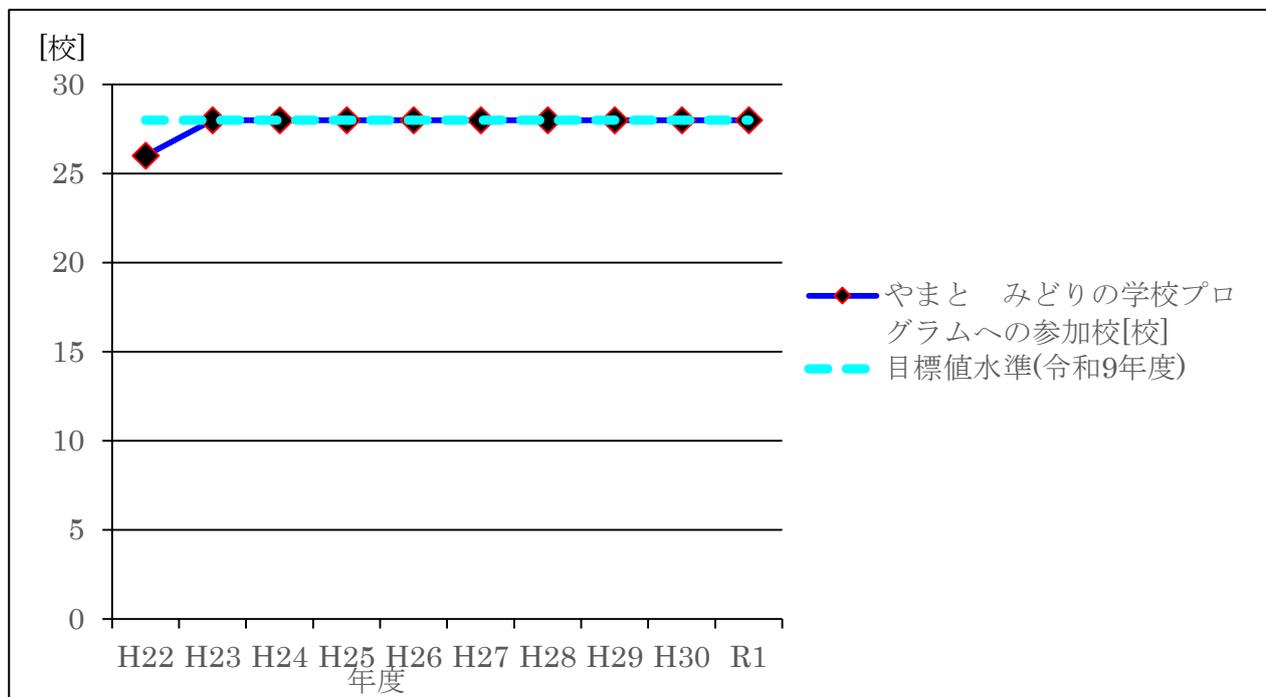
- ・北大和小、大野原小、南林間コミセン、防災パークに太陽光発電装置を設置した。
- ・家庭用燃料電池システムの補助制度や環境配慮指針により、省エネルギーの普及を促進した。
- ・太陽光発電等の補助制度により、再生可能エネルギーの普及を促進した。
- ・ごみ処理施設でのエネルギーの有効利用を図るため、焼却炉の稼働計画を作成し、効率的発電を実施したところ、当初計画通りの発電を行えた。

環境要素 16:環境保全活動

目標:環境にやさしい市民のまち

全体の数値目標:市内全校のやまと みどりの学校プログラムへの参加

【指標の内容】	環境教育の定着を目的として市内小中学校(全28校)が「やまと みどりの学校プログラム」への参加を達成したかどうかを表示します。
----------------	---



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和9年度	目標値
市立小中学校全28校のやまと みどりの学校プログラムへの参加※(参加校数)	達成28	達成28	達成28	達成28	達成28	達成

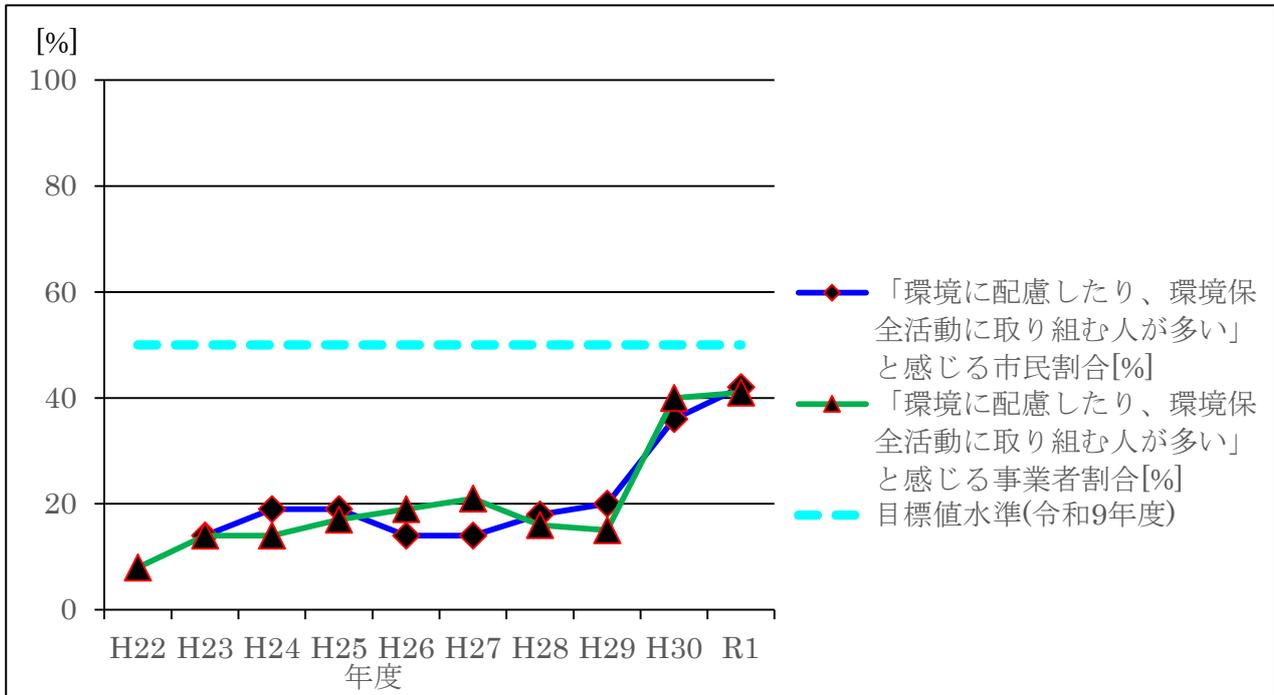
【本年度の評価】目標を達成した

【評価の理由】全小中学校が参加しているため

【目標の確認のための取組】やまと みどりの学校プログラムへのエントリーの確認

全体の数値目標：「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民・事業者の割合を表示します。
---------	--



項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和0年度	目標値
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合[%]	(14)	(18)	(20)	36	42	50
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる事業者割合[%]	(21)	(16)	(15)	40	41	50

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として 0 でくります。

【本年度の評価】市民割合、事業者割合ともに目標に近づいた

【評価の理由】市民、事業者ともに環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多いと感じる割合が増え目標に近づいたため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

《令和元年度の取組事例》

- ・総合的な学習の時間における環境学習について相談に応じ、関係各課の協力を得ながら支援した。
- ・体験やワークショップなど様々な形で環境学習の機会を提供できた。
- ・ホームページや刊行物、市のイベント等で、環境情報の提供を行った。